

胃がん術後連携手帳



埼玉医科大学総合医療センター 消化管・一般外科

連携施設名 _____

連携手帳とは・・・

この手帳は、手術を施行した病院とかかりつけ医が協力し、専門的な医療と総合的な診療をバランスよく提供する共同診療体制を構築することを目的に作成されました。内容は、①共同診療に必要な診療情報、②5年間の診療予定表、③5年分の診療記録、④病気に関する説明、の4つに分かれています。診療記録のところには患者さん自身に記入してもらう欄が設けてあります。

この連携手帳を使用することで、患者さんは今後の診療予定を知ることが出来ますし、診療情報が共有されますので安心してこれまで通りかかりつけ医の診療を受けることが出来ます。通院時間や待ち時間が短縮し、通院の負担が軽減します。

また、他の医療機関を受診する場合でも、お薬手帳と一緒に連携手帳を持参すれば、治療内容が正確に伝わり診療に役立ちます。

病状が落ち着いているときの投薬や日常の診療はかかりつけ医が行い、手術を行った病院へは節目に受診していただきます。何か心配なことがある時には、まずかかりつけ医にご相談ください。適宜必要に応じて手術病院を受診していただきます。また緊急を要する場合で休日や夜間等がかかりつけ医を受診出来ない場合は、手術した病院までご連絡ください。

患者さん情報

お名前: _____ 様

生年月日: 大・昭・平 _____ 年 _____ 月 _____ 日

身長 _____ cm 体重 _____ kg

手術病院: 埼玉医科大学総合医療センター

☎: 049-228-3618 (消化管・一般外科外来)

担当医 _____ 先生

ID:

手術日: _____ 年 _____ 月 _____ 日

手術日: _____ 年 _____ 月 _____ 日

手術日: _____ 年 _____ 月 _____ 日

かかりつけ医療機関(1) _____ 病院

医師名: _____ 先生

☎: _____ 番

かかりつけ医療機関(2) _____ 病院

医師名: _____ 先生

☎: _____ 番

かかりつけ薬局 _____ 薬局

☎: _____ 番

既往歴： _____.

_____.

○治療中の病気：高血圧・糖尿病などの有無

_____.

_____.

○アレルギーの有無（薬・食べ物等）

_____.

_____.

○内服薬（お薬手帳があるときは記入不要）

_____.

_____.

_____.

_____.

_____.

手術

手術記録

手術日：平成__年__月__日

開腹・腹腔鏡(補助)下

術式

胃全摘術・幽門側胃切除術・幽門保存胃切除術

噴門側胃切除術・胃分節切除術・胃局所切除術・非切除手術

郭清

D0・D1・D1+・D2・D2+

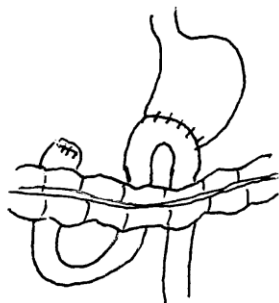
再建

幽門側胃切除後

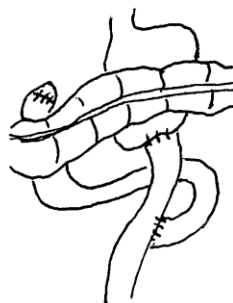
B-I



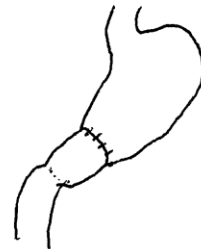
B-II



Roux en Y

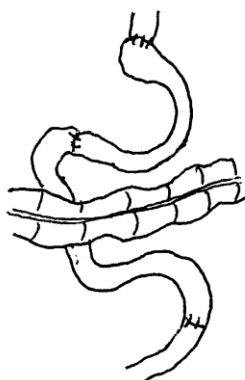


PPG

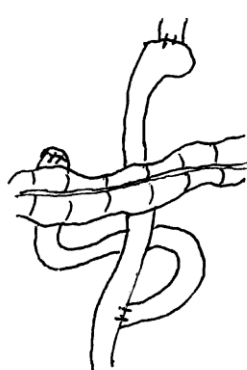


胃全摘後

空腸間置

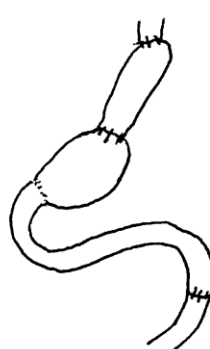


Roux en Y



噴門側胃切除後

空腸間置



食道残胃吻合



進行度・組織型

T()・N()・H()・P()・CY()・M()

Stage()

リンパ節転移個数 (____/____)

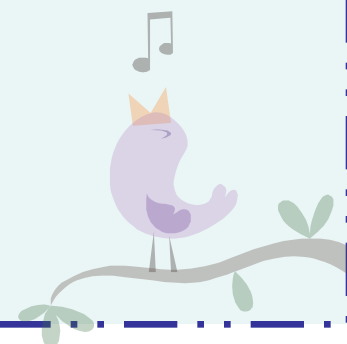
組織型

pap・tub1・tub2・por1・por2・sig・muc

あなたの今後の治療方針は？

- 🐣 1期：定期観察を受けてください
- 🐣 2期：定期観察を受けてください。
術後補助化学療法を受ける場合もあります。
- 🐣 3期：定期観察を受けてください。
一般的には術後補助化学療法が必要です。
- 🐣 4期：定期観察を受けてください。
術後補助化学療法が必要な場合もあります。

～メモ～



もくじ

- ✿ 退院後の日常生活 【 p.7 】
- ✿ 胃がん手術後の日常生活で
気を付けていただきたいこと 【 p.7~p.12 】
- ✿ 術後補助化学療法を受ける方へ 【 p.13 】
- ✿ 抗がん剤による副作用 【 p.13~p.15 】
- ✿ 退院後もこれだけは忘れずに！ 【 p.16~p.18 】
- ✿ 胃がん術後連携パス 【 p.19~p.38 】
- ✿ メモ 【 p.39~p.40 】
- ✿ 総合医療センターの各部署・担当等のご案内
【 p.41~p.42 】



退院後の日常生活

からだの調子に自信がついたら、
仕事に復帰。
外出も旅行も、何でもできます。

胃がん手術後の日常生活で 気をつけていただきたいこと

胃がん手術後の後遺症について



以下のような種類があります。

腸閉塞（ちょうへいそく）
ダンピング症候群
貧血
骨粗鬆症（こつそしょうしょう）
逆流性食道炎
胃手術後胆石症
小胃症状

それぞれについて解説いたします。

胃がん手術後の後遺症 ①



～腸閉塞～

手術したあとは、ほとんどの場合、お腹の中で腸があちこちにくっつきます。その結果、腸が曲がったりせまくなることによって腸閉塞が起こります。せまくなったところに食べ物がつまると、便もガスも出なくなります。ときには腸がねじれて、腸の流れが閉ざされてしまうこともあります。

〔 症状 〕

一般的に悪心、嘔吐、排便・排ガスの停止、腹痛がみられます。時には、腸がねじれて血流が途絶え、時間とともに腸が壊死（腸管の細胞が死滅してしまうこと）して、腸に穴が開いたりして大変危険です。吐き気や嘔吐に加えて痛みが強い場合には、必ず医師の診察を受けて下さい。



〔 治療法 〕

多くの場合には、絶食していると自然に治るのですが、ときには癒着（ゆちゃく）を剥がしたり、ねじれを治す手術が必要なことがあります。

胃がん手術後の後遺症 ②



～ダンピング症候群～

ダンピング症候群とは・・・

胃を切除すると、いままで胃の中で攪拌（かくはん）されて少しずつ腸に移動していた食物が、一度に急に腸へ流れ込む状態になります。そのために起きる不愉快な症状がダンピング症候群といわれるものです。食後30分以内に起こる場合（早期ダンピング症候群）が多いですが、食後2～3時間で起こる場合（後期ダンピング症候群）もあります。

〔 症状 〕

早期ダンピング症候群：食後30分以内に発汗、めまい、脈拍が上がるなどの全身症状と悪心、腹部膨満感、下痢などの消化器症状が出現します。

後期ダンピング症候群：食後2～3時間に頭痛、汗が出る、脈拍が増える、めまい、脱力感を覚え、ときには気を失ってしまうこともあります。

〔 治療法 〕

早期ダンピング症候群：安静により数分～数十分で改善します。しかし、顕著な場合は抗セロトニン薬や粘膜麻酔薬を投与することもあります。

後期ダンピング症候群：糖質の補給が必要になります。ブドウ糖の静注や、ビスケットやあめ玉、氷砂糖をとったり、甘い飲み物を飲んで下さい。予防するには、食後2時間あたりに何かおやつを食べることが有効です。

胃がん手術後の後遺症 ③



～貧血～

胃がん手術後の貧血とは・・・

胃切除により、鉄分が吸収されにくくなるために貧血（鉄欠乏性貧血）が起こる場合があります。とくに胃全摘ではビタミンB₁₂が吸収されにくくなっているために巨赤芽球性貧血（きよせきがきゅうせいひんけつ）が起こります。

● 鉄欠乏性貧血

手術後数ヶ月から出現することがあります。鉄分の多い食事を心掛け、それも鉄分が足りない場合は、治療として鉄剤の補充を行います。

● 巨赤芽球性貧血

ビタミンB₁₂は体内に蓄積されており、数年間はその蓄積したビタミンB₁₂でまかなうことができます。しかし手術後4～5年以降には蓄積がなくなり、巨赤芽球性貧血が発症することが多いです。胃全摘の場合は、ビタミンB₁₂の定期的な注射による補充が必要です。

～骨粗鬆症～

骨粗鬆症とは・・・

胃の手術をすると、カルシウムの吸収が悪くなるため骨のカルシウムが減少して骨が弱くなります。ときに、骨折したりします。

定期的に骨のカルシウムの濃度（骨塩量）を測定（レントゲンなどで簡単に測定できます）し、必要であればカルシウムや、ビタミンDの投与が望ましいとされています。普段からカルシウムの補給には十分気を付けましょう。

胃がん手術後の後遺症 ④



～逆流性食道炎～

逆流性食道炎とは・・・

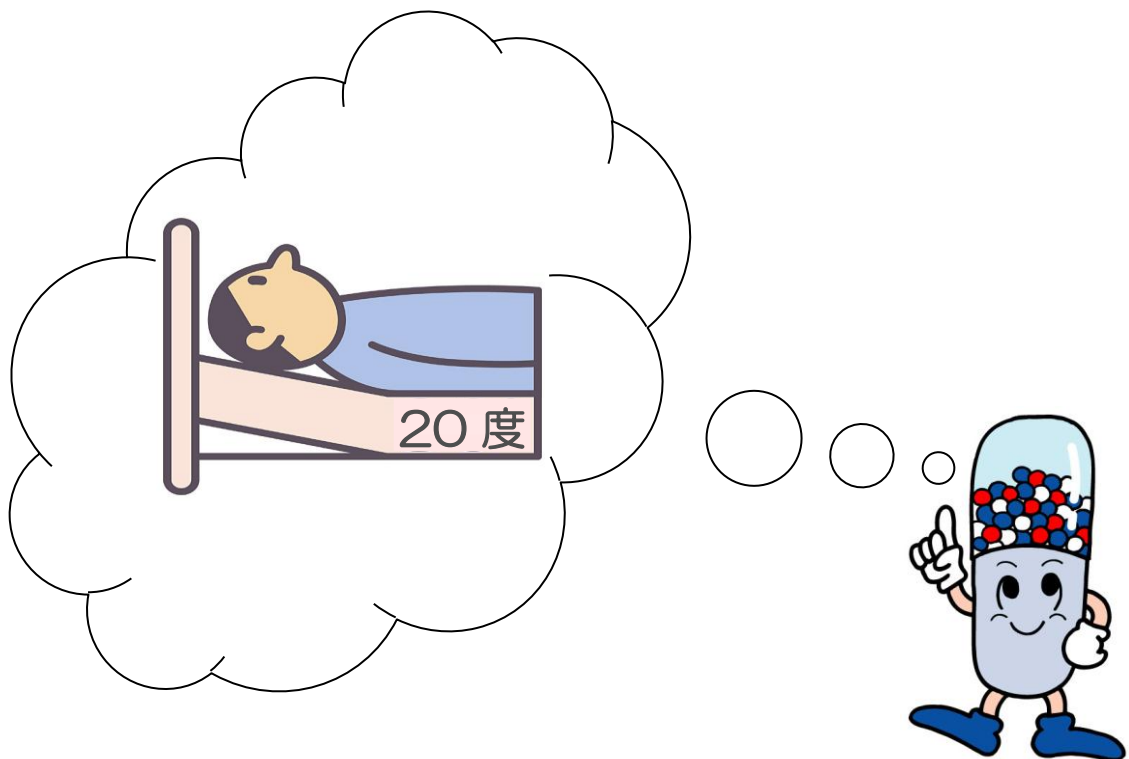
食道内へ胃の内容物が逆流することです。これは手術によって胃の入口（噴門）の逆流防止の機能が損なわれたために起こります。特に胃全摘や、噴門側胃切除の手術後に多く見られます。

〔 症状 〕

苦い水（腸液）や酸っぱい水（胃液）が口のほうへ上がってきたり、胸やけなどの症状が見られることがあります。

〔 治療法 〕

上半身を 20 度くらい高くして寝るとよいのですが、病状に応じて粘膜保護剤、制酸剤、酵素阻害薬（有害な酵素作用を止める）など、さまざまな薬が投与されることがあります。



胃がん手術後の後遺症 ⑤



～胃手術後胆石症～

胃手術後胆石症とは・・・

胃の手術の時には、しばしば胆嚢（たんのう）の神経が切れてしまいます。そのために胆嚢の動きが悪くなり、あとで胆嚢に炎症を起こしたり、胆嚢内に結石ができることがあります。

胆嚢とは・・・

胆嚢は肝臓でできる胆汁という黄色い液をためたり濃縮したりする、なすびのような形をした臓器です。胆嚢は十二指腸につながっており、脂肪を含んだ食物が十二指腸に流れてきた時には、ためていた胆汁を十二指腸に放出することによって、消化・吸収を助けることとなります。

～小胃症状～

小胃症状とは・・・

胃を切除したために胃が小さくなり、あるいはなくなることによって起こってくるすべての症状を小胃症状といいます。

〔 症状 〕

食事が少ししか入らない、あるいは、すぐにお腹が一杯になるといった症状は最も一般的な症状です。手術を受けられたほとんどの方が経験される症状です。

〔 治療法 〕

お腹を順応させてやることが大切になります。そのためには、食事のとり方が大切です。

術後補助療法を受ける方へ

がんを手術で全部切除できたように見えても、その時点ですでに目に見えないがん細胞がほかの臓器に移動している可能性があり、時間がたってから再発として見つかることがあります。そこで、目に見えないがんを根絶することを目的として、抗がん剤の投与が行われます。これを補助療法といいます。標準療法としてTS-1の内服(12ヶ月)や患者さんの様子によってはUFTの内服(16ヶ月)を行います。

抗がん剤による副作用



抗がん剤による副作用について説明します。抗がん剤はがん細胞のように、はやく増える細胞を攻撃しますが、正常な細胞にも薬の影響が出てしまうため、以下の症状が副作用として現れます。

吐き気、嘔吐
だるさ、貧血
感染
口内炎
下痢
脱毛 など

次ページから、それぞれについて解説します。

抗がん剤による副作用 ①

～吐き気、嘔吐～

抗がん剤による吐き気・嘔吐は、胃や腸の粘膜や脳の嘔吐中枢に抗がん剤が影響し出現します。症状は人や抗がん剤により様々で、軽い吐き気を感じるだけの人もいますし、投与終了数時間後から 24 時間にわたり激しく嘔吐する人もいます。また、数日間、続くこともあります。人によっては前回の投与時の嘔吐の経験から、条件反射的に薬を投与する前から吐き気を感じてしまう人もいます。

～だるさ、貧血～

抗がん剤治療中にだるさが出てきます。原因は明確ではありませんが、抗がん剤に対する体の反応により余分なエネルギーを使用することなどが考えられています。

また、ほとんどの抗がん剤は血液を造るために重要な働きをする骨髄を障害する作用があります。したがって、抗がん剤治療を何回か繰り返すと、全身に酸素を運搬する赤血球が不足し、貧血状態になることがあります。

～感染～

抗がん剤治療による骨髄障害のため、白血球が減少します。白血球が減少すると細菌と闘う力が弱くなり、非常に感染しやすい状態になります。このため、菌血症（血液中に細菌が侵入した状態）をはじめ、腸炎、肺炎などの感染に対する注意が必要です。



抗がん剤による副作用 ②

～口内炎～

化学療法の副作用で口内炎ができることがあります。また、化学療法中は細菌に対する抵抗力が弱くなっているため、口の中が感染し、重大な病気を引き起こすこともありますので、気を付けて下さい。

～下痢～

抗がん剤は腸の粘膜に影響を与えるため、下痢をおこすことがあります。1日に何度も下痢をする日が続く場合、あるいは差し込むような腹痛があるような場合には、かかりつけ医の診察を受けて下さい。

～脱毛～

脱毛はよくみられる副作用のひとつですが、治療が終われば毛は元どおりに生えてきます。

治療開始後すぐにみられるものではありませんが、髪が根元で切れるようになり、頭皮も柔らかくなるのが症状の出始めです。症状の出方は人により様々で、徐々に薄くなる人もいれば、自分で自分の頭髪をひっぱると大量の頭髪がとれるようになってショックをうける人もいます。

回復は比較的早く、治療終了後しばらくすると生え始め、通常は約6ヶ月で回復します。



退院後もこれだけは忘れずに！

☆ 定期的な診察や検査に行きましょう

手術後5年を目途に、定期的な診察や検査を行います。診察や検査の間隔は、手術後の状態によって異なりますから、医師の指示通り、決められた日に診察や検査を受けるようにしてください。なお、定期検査は胃がんを対象としているものです。他の病気をカバーするものではありません。



定期的な診察や
検査を

☆ 毎月1回、自己検診を続けましょう

どんな病気でも早期に発見して、早期に治療することが大切です。毎月1回、日を決めて、ご自分で症状をチェックしてください。気になるところがあったら、かかりつけ医に相談してください。



☆ 指示された薬は忘れずに服用しましょう

病院で処方された薬のなかでも化学療法剤は手術の治療効果を高めるために必要なものです。薬を服用するように医師から指示された場合には、指示された通りに忘れずに正しく服用してください。

副作用がある場合には、医師に申し出てください。

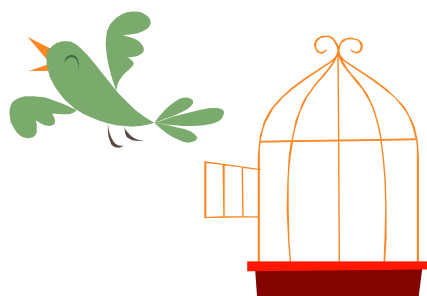


☆ 悩んでいるのはあなただけではありません

あなたが安心して治療や検査を続けていくためには、ご家族とともに医師や看護師とのコミュニケーションをよくし、一緒にこの病気と闘っていく気持ちが大切です。

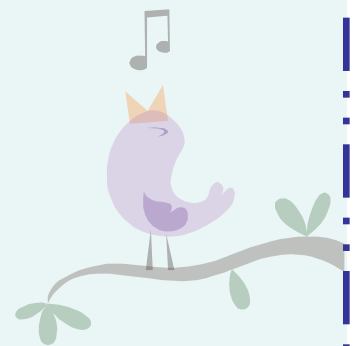
まだまだ、不安や悩みがあると思いますが、あなたと同じ経験をされた患者さんはたくさんいらっしゃいます。

そして、その多くの方が、病気を克服し、充実した人生を送っていることを忘れないでください。決して自分のからに閉じこもってしまわないように、明るく、希望を持って前進し、病気をしてかえって良かったと思われるような建設的な生活を送ってください。



～メモ～

.....



胃がん術後連携パス (1～6ヶ月)

○は必須項目 △は必要時に行います ▲は補助化学療法施行時に実施

(術後)			かかりつけ医	かかりつけ医	総合医療センター 又は かかりつけ医
			1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月
			毎月受診	毎月受診	月 日
診察	問診	腸閉塞症状の有無	○	○	○
		ダンピング症状の有無			
		食道逆流症の有無			
		貧血症状の有無			
		小胃症状の有無			
		一般的内科的診察の異常			
	視触診	△	△	○	
採血		血算・生化学	▲	▲	○
		CEA・CA19-9	△	△	○
検査		胸腹部X-P			△
		胸腹部CT			△
		腹部超音波検査			△
		内視鏡的検査			
投薬		一般薬	△	△	△
		補助化学療法薬	▲	▲	▲
自己 検 診	腹部の チェック	体重			
		腹部の症状はないか			
		ダンピング症状はないか			
		便通の異常はないか			
		創部の異常はないか			
	抗がん剤 の副作用 チェック	吐き気・嘔吐はないか			
全身倦怠感はないか					
口内炎はないか					
	その他				

気になる項目をチェックし、医師に相談しましょう





かかりつけ医	かかりつけ医	総合医療センター 又は かかりつけ医
4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月
毎月受診	毎月受診	月 日
○	○	○
△	△	○
▲	▲	○
△	△	○
		△
		○
		△
△	△	△
▲	▲	▲

～メモ～

*あなたが手術を受けた日

平成 年 月 日

*受けた手術

- 胃全摘術
- 幽門側胃切除術
- 幽門保存胃切除術
- 噴門側胃切除術
- その他

胃がん術後連携パス（7ヶ月～1年）

○は必須項目 △は必要時に行います ▲は補助化学療法施行時に実施

		（術後）	かかりつけ医	かかりつけ医	総合医療センター 又は かかりつけ医
			7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月
			毎月受診	毎月受診	月 日
診察	問診	腸閉塞症状の有無	○	○	○
		ダンピング症状の有無			
		食道逆流症の有無			
		貧血症状の有無			
		小胃症状の有無			
		一般的内科的診察の異常			
	視触診	△	△	○	
採血		血算・生化学	▲	▲	○
		CEA・CA19-9	△	△	○
検査		胸腹部X-P			△
		胸腹部CT			△
		腹部超音波検査			△
		内視鏡的検査			
投薬		一般薬	△	△	△
		補助化学療法薬	▲	▲	▲
自己 検 診	腹部の チェック	体重			
		腹部の症状はないか			
		ダンピング症状はないか			
		便通の異常はないか			
		創部の異常はないか			
	抗がん剤 の副作用 チェック	吐き気・嘔吐はないか			
全身倦怠感はないか					
口内炎はないか					
	その他				

気になる項目をチェックし、医師に相談しましょう





～メモ～

かかりつけ医	かかりつけ医	総合医療センター 又は かかりつけ医
10ヶ月	11ヶ月	1年
毎月受診	毎月受診	月 日
○	○	○
△	△	○
▲	▲	○
△	△	○
		△
		○
		△
		○
△	△	△
▲	▲	▲

胃がん術後連携パス（1年1～6ヶ月）

○は必須項目 △は必要時に行います ▲は補助化学療法施行時に実施

			かかりつけ医	かかりつけ医	総合医療センター 又は かかりつけ医
			1年1ヶ月	1年2ヶ月	1年3ヶ月
			毎月受診	毎月受診	月 日
診察	問診	腸閉塞症状の有無	○	○	○
		ダンピング症状の有無			
		食道逆流症の有無			
		貧血症状の有無			
		小胃症状の有無			
		一般的内科的診察の異常			
	視触診	△	△	○	
採血		血算・生化学	▲	▲	○
		CEA・CA19-9	△	△	○
検査		胸腹部X-P			△
		胸腹部CT			△
		腹部超音波検査			△
		内視鏡的検査			
投薬		一般薬	△	△	△
		補助化学療法薬	▲	▲	▲
自己 検 診	腹部の チェック	体重			
		腹部の症状はないか			
		ダンピング症状はないか			
		便通の異常はないか			
		創部の異常はないか			
	抗がん剤 の副作用 チェック	吐き気・嘔吐はないか			
全身倦怠感はないか					
口内炎はないか					
	その他				

気になる項目をチェックし、医師に相談しましょう





～メモ～

かかりつけ医	かかりつけ医	総合医療センター 又は かかりつけ医
1年4ヶ月	1年5ヶ月	1年6ヶ月
毎月受診	毎月受診	月 日
○	○	○
△	△	○
▲	▲	○
△	△	○
		△
		○
		△
△	△	△
▲		

胃がん術後連携パス (1年7ヶ月～2年)

○は必須項目 △は必要時に行います ▲は補助化学療法施行時に実施

(術後)			かかりつけ医	かかりつけ医	総合医療センター 又は かかりつけ医
			1年7ヶ月	1年8ヶ月	1年9ヶ月
			毎月受診	毎月受診	月 日
診察	問診	腸閉塞症状の有無	○	○	○
		ダンピング症状の有無			
		食道逆流症の有無			
		貧血症状の有無			
		小胃症状の有無			
		一般的内科的診察の異常			
	視触診	△	△	○	
採血		血算・生化学	▲	▲	○
		CEA・CA19-9	△	△	○
検査		胸腹部X-P			△
		胸腹部CT			△
		腹部超音波検査			△
		内視鏡的検査			
投薬		一般薬	△	△	△
自己 検診	腹部の チェック	体重			
		腹部の症状はないか			
		ダンピング症状はないか			
		便通の異常はないか			
		創部の異常はないか			



気になる項目をチェックし、医師に相談しましょう



～メモ～

かかりつけ医	かかりつけ医	総合医療センター 又は かかりつけ医
1年10ヶ月	1年11ヶ月	2年
毎月受診	毎月受診	月 日
○	○	○
△	△	○
▲	▲	○
△	△	○
		△
		○
		△
		○
△	△	△

胃がん術後連携パス（2年1～6ヶ月）

○は必須項目 △は必要時に行います ▲は補助化学療法施行時に実施

			かかりつけ医	かかりつけ医	かかりつけ医
			2年1ヶ月	2年2ヶ月	2年3ヶ月
			毎月受診	毎月受診	毎月受診
診察	問診	腸閉塞症状の有無	○	○	○
		ダンピング症状の有無			
		食道逆流症の有無			
		貧血症状の有無			
		小胃症状の有無			
		一般的内科的診察の異常			
	視触診	△	△	△	
採血		血算・生化学	△	△	△
		CEA・CA19-9	△	△	△
検査		胸腹部X-P			
		胸腹部CT			
		腹部超音波検査			
		内視鏡的検査			
投薬		一般薬	△	△	△
		補助化学療法薬			
自己 検 診	腹部の チェック	体重			
		腹部の症状はないか			
		ダンピング症状はないか			
		便通の異常はないか			
		創部の異常はないか			



気になる項目をチェックし、医師に相談しましょう



～メモ～

かかりつけ医	かかりつけ医	総合医療センター 又は かかりつけ医
2年4ヶ月	2年5ヶ月	2年6ヶ月
毎月受診	毎月受診	月 日
○	○	○
△	△	○
△	△	○
△	△	○
		△
		△
		△
△	△	△

胃がん術後連携パス（2年7ヶ月～3年）

○は必須項目 △は必要時に行います ▲は補助化学療法施行時に実施

			かかりつけ医	かかりつけ医	かかりつけ医
			2年7ヶ月	2年8ヶ月	2年9ヶ月
			毎月受診	毎月受診	毎月受診
診察	問診	腸閉塞症状の有無	○	○	○
		ダンピング症状の有無			
		食道逆流症の有無			
		貧血症状の有無			
		小胃症状の有無			
		一般的内科的診察の異常			
	視触診	△	△	△	
採血	血算・生化学	△	△	△	
	CEA・CA19-9	△	△	△	
検査	胸腹部X-P				
	胸腹部CT				
	腹部超音波検査				
	内視鏡的検査				
投薬	一般薬	△	△	△	
	補助化学療法薬				
自己 検 診	腹部の チェック	体重			
		腹部の症状はないか			
		ダンピング症状はないか			
		便通の異常はないか			
		創部の異常はないか			



気になる項目をチェックし、医師に相談しましょう



～メモ～

かかりつけ医	かかりつけ医	総合医療センター 又は かかりつけ医
2年10ヶ月	2年11ヶ月	3年
毎月受診	毎月受診	月 日
○	○	○
△	△	○
△	△	○
△	△	○
		△
		○
		△
		○
△	△	△

胃がん術後連携パス（3年1～6ヶ月）

○は必須項目 △は必要時に行います ▲は補助化学療法施行時に実施

			(術後)		
			かかりつけ医	かかりつけ医	かかりつけ医
			3年1ヶ月	3年2ヶ月	3年3ヶ月
診察	問診	腸閉塞症状の有無	○	○	○
		ダンピング症状の有無			
		食道逆流症の有無			
		貧血症状の有無			
		小胃症状の有無			
		一般的内科的診察の異常			
	視触診	△	△	△	
採血	血算・生化学	△	△	△	
	CEA・CA19-9	△	△	△	
検査	胸腹部X-P				
	胸腹部CT				
	腹部超音波検査				
	内視鏡的検査				
投薬	一般薬	△	△	△	
	補助化学療法薬				
自己検診	腹部のチェック	体重			
		腹部の症状はないか			
		ダンピング症状はないか			
		便通の異常はないか			
		創部の異常はないか			



気になる項目をチェックし、医師に相談しましょう



～メモ～

かかりつけ医	かかりつけ医	総合医療センター 又は かかりつけ医
3年4ヶ月	3年5ヶ月	3年6ヶ月
		月 日
○	○	○
△	△	○
△	△	○
△	△	○
		△
		△
		△
△	△	△

胃がん術後連携パス（3年7ヶ月～4年）

○は必須項目 △は必要時に行います ▲は補助化学療法施行時に実施

		(術後)	かかりつけ医	かかりつけ医	かかりつけ医
			3年7ヶ月	3年8ヶ月	3年9ヶ月
診察	問診	腸閉塞症状の有無	○	○	○
		ダンピング症状の有無			
		食道逆流症の有無			
		貧血症状の有無			
		小胃症状の有無			
		一般的内科的診察の異常			
	視触診	△	△	△	
採血	血算・生化学	△	△	△	
	CEA・CA19-9	△	△	△	
検査	胸腹部X-P				
	胸腹部CT				
	腹部超音波検査				
	内視鏡的検査				
投薬	一般薬	△	△	△	
	補助化学療法薬				
自己検診	腹部のチェック	体重			
		腹部の症状はないか			
		ダンピング症状はないか			
		便通の異常はないか			
		創部の異常はないか			



気になる項目をチェックし、医師に相談しましょう



～メモ～

かかりつけ医	かかりつけ医	総合医療センター 又は かかりつけ医
3年10ヶ月	3年11ヶ月	4年
		月 日
○	○	○
△	△	○
△	△	○
△	△	○
		△
		○
		△
		○
△	△	△

胃がん術後連携パス（4年1～6ヶ月）

○は必須項目 △は必要時に行います ▲は補助化学療法施行時に実施

			(術後)		
			かかりつけ医	かかりつけ医	かかりつけ医
			4年1ヶ月	4年2ヶ月	4年3ヶ月
診察	問診	腸閉塞症状の有無	○	○	○
		ダンピング症状の有無			
		食道逆流症の有無			
		貧血症状の有無			
		小胃症状の有無			
		一般的内科的診察の異常			
	視触診	△	△	△	
採血	血算・生化学	△	△	△	
	CEA・CA19-9	△	△	△	
検査	胸腹部X-P				
	胸腹部CT				
	腹部超音波検査				
	内視鏡的検査				
投薬	一般薬	△	△	△	
	補助化学療法薬				
自己検診	腹部のチェック	体重			
		腹部の症状はないか			
		ダンピング症状はないか			
		便通の異常はないか			
		創部の異常はないか			



気になる項目をチェックし、医師に相談しましょう



～メモ～

かかりつけ医	かかりつけ医	総合医療センター 又は かかりつけ医
4年4ヶ月	4年5ヶ月	4年6ヶ月
		月 日
○	○	○
△	△	○
△	△	○
△	△	○
		△
		△
		△
△	△	△

胃がん術後連携パス（4年7ヶ月～5年）

○は必須項目 △は必要時に行います ▲は補助化学療法施行時に実施

			(術後)		
			かかりつけ医	かかりつけ医	かかりつけ医
			4年7ヶ月	4年8ヶ月	4年9ヶ月
診察	問診	腸閉塞症状の有無	○	○	○
		ダンピング症状の有無			
		食道逆流症の有無			
		貧血症状の有無			
		小胃症状の有無			
		一般的内科的診察の異常			
	視触診	△	△	△	
採血	血算・生化学	△	△	△	
	CEA・CA19-9	△	△	△	
検査	胸腹部X-P				
	胸腹部CT				
	腹部超音波検査				
	内視鏡的検査				
投薬	一般薬	△	△	△	
	補助化学療法薬				
自己検診	腹部のチェック	体重			
		腹部の症状はないか			
		ダンピング症状はないか			
		便通の異常はないか			
		創部の異常はないか			



気になる項目をチェックし、医師に相談しましょう



～メモ～

かかりつけ医	かかりつけ医	総合医療センター 又は かかりつけ医
4年10ヶ月	4年11ヶ月	5年
		月 日
○	○	○
△	△	○
△	△	○
△	△	○
		△
		○
		△
		○
△	△	△

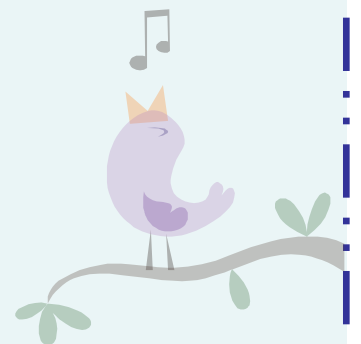
- ★ 5年目以降のかかりつけ医は必要時受診（3～6ヶ月）
- ★ 定期受診は5年目まで
- ★ 定期受診日以外でも必要があれば受診

～メモ～



～メモ～

.....



総合医療センターの各部署・担当等のご案内

医療福祉相談

患者さんが病院に対する安心感と信頼感を持って療養に専念していただけるように医療福祉相談の窓口で相談をお受けしています。また、がん診療連携拠点病院として、がんに関する相談*もお受けしております。

窓口開設時間：月～土曜日 8:30～17:00

電話番号：医療福祉相談室 049-228-3825

がんに関する相談*（がん相談支援センター）

当センターに入院・通院されている患者さん・家族の方が安心して暖かな医療・看護が受けられるよう、医師または看護師などセンター内のスタッフとの連携はもとより、地域の医療・保健・福祉などの各機関と協働・連携をとりながら、より満足度の高い療養生活と充実した日々を送っていただけるように支援を行っています。

窓口開設時間：月～土曜日 8:30～17:00

電話番号：がん相談支援センター 049-228-3825

診療連携室

診療連携室では、地域医療機関との医療連携を進め、患者さんに安心して受診していただくため、地域医療機関の先生方と当センター医師とのスムーズな連絡・連携の窓口としての役割を果たしています。

電話番号：049-228-3750

予約外受診

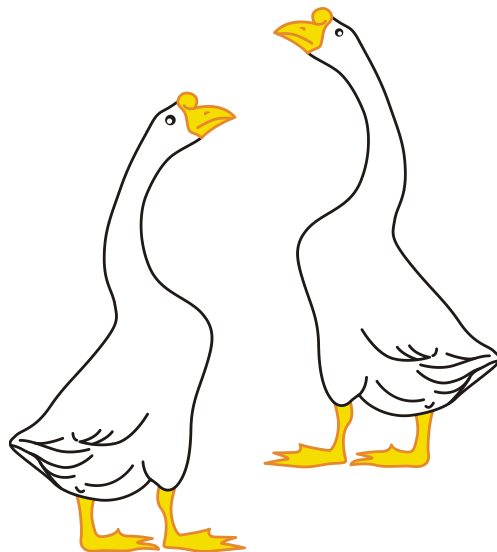
必要があれば、予約外診療も受け付けています。
受診の際は、消化管・一般外科外来受付までお問い合わせください。

電話番号：049-228-3618

夜間・休日などの対応

緊急を要する場合で、休日や夜間等
かかりつけ医を受診できないときは、
総合医療センター救急外来までご連絡ください。

電話番号：049-228-3595（救急外来）





埼玉医科大学総合医療センター

TEL 049-228-3411(代表)

あなたのお名前

さん

かかりつけ医

(電話 — —)

埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科
電話 048-228-3619

平成23年7月